

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 公益財団法人千葉市国際交流協会

1. 事業名称 千葉市および近隣地域における生活者としての外国人に対する日本語教育・社会参加支援体制整備事業

2. 事業の目的

生活者としての外国人に対する生活・社会参加に根差した日本語教育の機会拡充と内容充実を図るとともに、市民の多文化理解促進により、包括的な支援体制整備を行う。

3. 事業内容の概要

生活者としての外国人が積極的に地域社会に参加することを目的とした日本語教育の取り組みを行う。外国人の社会参加が地域社会にとって力となることを理解し後押しする実践ができるよう理論実践両面の支援者研修を行い、既存の支援の資質向上と新たな支援者を確保する。取り組みの検討や実施において関係機関や個人と連携することにより、地域にゆるやかな支援ネットワークを作る。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 7月11日 13:00～ 16:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ会議室	神吉宇一 新倉涼子 萬浪絵理 緑川聡 鈴木恵美子	1. 出席者紹介 2. 事業実施の経緯・概要説明 3. 詳細の事業計画・事業内容および進捗状況説明 4. 質疑応答・意見交換	事業実施の背景および経緯に関する説明と意見交換 事業として目指すべき方向性に関して意見交換が行われた。
2	平成26年 10月17日 13:00～ 16:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ会議室	神吉宇一 新倉涼子 萬浪絵理 緑川聡 鈴木恵美子	1. 実施済み内容報告および今後の実施計画説明 2. 意見交換	事業実施状況報告および実施内容に関する意見交換 今後の計画に関する意見交換
3	平成27年 2月13日 13:00～ 16:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ会議室	神吉宇一 新倉涼子 萬浪絵理 緑川聡 鈴木恵美子	1. 事業実施報告 2. 事業評価 3. 意見交換	1年間の取り組みについての報告 事業評価に関する評価シートの項目および内容に関する検討

5. 取組についての報告

○取組1:生活者としての外国人に対する生活・社会参加支援日本語教育

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・スピーチをしたり対話セッションに参加したりすることを通じて日本語の運用能力が培われる。
- ・生活に密着した様々なテーマに関して日本事情を観察し自国と比較するという活動を通して、外国人の日本への理解と内省が促進される。
- ・自分の考えや体験を発信するという行為により、対話に参加する日本人の多文化理解が進み、また、日本で生活する外国人の苦労や不安への共感が生まれる。日本人の意識にそういった変化が起きることで発信者が取組に意義を感じる。

(2) 取組内容

1)テーマ別発信型日本語講座(子育て、介護、防災、自治会など)

生活に密着したテーマを中心に据え、学習支援者を含む多様な地域住民との交流・協働の中で「話す・聞く・書く・読む・調べる・やってみる」などの複合的な言語活動をおこなう。

- ①ステップ1 テーマに関する調べ学習やディスカッション、専門家による講話
- ②ステップ2 国事情や日本との比較に関するスピーチや、出席した日本人とのグループ活動
- ③ステップ3 ステップ1、2から得られた成果を外部への発信を目的としてまとめる活動

2)日本語会話グループレッスン

「日本語でもっと自由に言いたいことをつけること」を目的に、グループ形式で自分の話したいテーマで支援者と会話する。支援者体験研修も兼ねる。

(3) 対象者 地域在住外国人、テーマに関心のある地域住民

(4) 参加者の総数 165人

出身・国籍別内訳

中国	35人	インドネシア	4人	アメリカ2人、イギリス1人、ガーナ1人、スリランカ1人、台湾1人、バングラデシュ1人、ボリビア1人、マレーシア1人、ミャンマー1人
韓国	5人	タイ	6人	
ブラジル	0人	ペルー	1人	
ベトナム	5人	フィリピン	4人	
ネパール	0人	日本	95人	

(5) 開催時間数(回数) 69 時間 (全24回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 7月7日 13:00～ 16:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	19人	中国(3人)、ア メリカ(1人)、 タイ(1人)、 フィリピン(1 人)、スリラン カ(1人)、日本 (12人)	趣味-①	趣味に関する話し合い、ス ピーチの準備。	萬浪絵理 (講師)	
2	平成26年 7月14日 13:00～ 16:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	37人	タイ(2人)、中 国(2人)、フィ リピン(1人)、 ベトナム(1 人)、日本(31 人)	趣味-②	学習者のスピーチと質疑 応答。小グループに分か れグループ活動。まちにど のような環境があればだ れでも余暇を楽しめるよ うになるかアイデア出し。	萬浪絵理 (講師)	
3	平成26年 7月28日 13:00～ 16:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	12人	タイ(1人)、中 国(2人)、フィ リピン(1人)、 日本8人)	趣味-③	スピーチ動画につける要 約の作成。アンケートの集 計。	萬浪絵理 (講師)	宮島京子、三橋敏孝
4	平成26年 8月7日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	12人	中国(2人)、韓 国(2人)、インド ネシア(1人)、 タイ(1人)、ペ ルー(1人)、日 本(5人)	家族-①	家族に関する導入的な話 し合い。 スピーチの準備。	宮島京子 (講師)	
5	平成26年 8月21日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	22人	中国(3人)、韓 国(2人)、インド ネシア(1人)、 タイ(1人)、ペ ルー(1人)、マ レーシア(1 人)、日本(13 人)	家族-②	学習者のスピーチと質疑 応答。小グループに分か れケーススタディ。	宮島京子 (講師)	萬浪絵理、パクソヨン
6	平成26年 8月7日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	6人	インドネシア(1 人)、タイ(1 人)、日本(4人)	家族-③	スピーチ動画につける要 約の作成。アンケート集計 とまとめの作業。活動報告 の作文。	萬浪絵理(講 師)	パクソヨン
7	平成26年 9月19日 10:00～ 13:00	3時間	鎌取コミュニテ ィセンター	10人	中国(4人)、日 本(6人)	子育て1-①	子育てに関する導入的な 話し合い。子育て文化や 経験についての共有。ス ピーチの準備。	萬浪絵理(講 師)	
8	平成26年 9月27日 10:00～ 13:00	3時間	緑保健福祉セン ター	17人	中国(5人)、タ イ(1人)、韓国 (1人)、日本(10 人)	子育て1-②	学習者のスピーチと質疑 応答。小グループに分か れケーススタディ。	宮島京子 (講師)	パクソヨン
9	平成26年 10月3日 (金)10:00～ 13:00	3時間	鎌取コミュニテ ィセンター	9人	中国(1人)、 フィリピン(1 人)、ベトナム (1人)、日本(6 人)	子育て1-③	スピーチ動画につける要 約の作成。アンケート集計 とまとめの作業。活動報告 の作文。	萬浪絵理 (講師)	高橋実優子
10	平成26年 10月8日 10:00～ 13:00	3時間	美浜保健福祉セ ンター	16人	中国(7人)、台 湾(1人)、タイ(1 人)、日本(7人)	介護-①	介護に関する講話と内容 の共有。介護に関する話し 合い、スピーチの準備。	萬浪絵理(講 師)、釘地平 子(講話講 師)	パクソヨン
11	平成26年 10月15日 10:00～ 13:00	3時間	美浜保健福祉セ ンター	14人	中国(3人)、台 湾(1人)、ベト ナム(1人)、日 本(9人)	介護-②	学習者のスピーチと質疑 応答。小グループに分か れグループワーク。幸せな 老後のために、「自助」「共 助」としてできることをマイ ンドマップにする。	萬浪絵理 (講師)	高橋実優子
12	平成26年 10月22日 10:00～ 13:00	3時間	美浜保健福祉セ ンター	11人	中国(4人)、台 湾(1人)、ベト ナム(1人)、日 本(5人)	介護-③	介護に関するミニドラマ作 り。スピーチ動画につける 要約の作成。	萬浪絵理 (講師)	三橋敏孝

13	平成26年 10月31日 10:00～ 13:00	3時間	花見川保健福祉 センター	17人	中国(5人)、台 湾(1人)、タイ(2 人)、ベトナム (1人)、ガーナ (1人)、日本(7 人)	防災-①	起震車での地震体験、消 火体験。防災に関する講 話。防災に関する話し合 い、スピーチの準備。	萬浪絵理(講 師)	三橋敏孝
14	平成26年 11月7日 (金)10:00～ 13:00	3時間	花見川保健福祉 センター	26人	中国(7人)、タ イ(2人)、ベトナ ム(1人)、ガー ナ(1人)、日本 (15人)	防災-②	学習者のスピーチと質疑 応答。小グループに分か れグループワーク。①防災 バッグに入れたいものをイ ラストでリストアップ②「自 助」「共助」としてできること マインドマップ③各自、すぐ に取りかかる対策を宣言。	萬浪絵理 (講師)	パクソヨン
15	平成26年 11月14日 (金)10:00～ 13:00	3時間	花見川保健福祉 センター	15人	中国(5人)、タ イ(2人)、インド ネシア(1人)、 ガーナ(1人)、 日本(6人)	防災-③	防災に関するミニドラマ作 り。スピーチ動画に要約を つける。	萬浪絵理(講 師)	高橋実優子
16	平成26年 11月25日 (火)13:00～ 16:00	3時間	千葉県国際交流 センター 会議室	6人	中国(1人)、ポ リビア(1人)、 ベトナム(1 人)、日本(3人)	子育て2-①	子育てに関する講話を聞 く。子育てに関する話し合 い、スピーチの準備。	萬浪絵理(講 師)、白井晴 美(講話講 師)	
17	平成26年 12月3日 13:00～ 16:00	3時間	千葉県国際交流 センター 会議室	18人	中国(1人)、ホ リビア(1人)、 ベトナム(2 人)、ガーナ(1 人)、アメリカ(1 人)、日本(13 人)	子育て2-②	学習者のスピーチと質疑 応答。小グループに分か れグループワーク。	萬浪絵理(講 師)	
18	平成26年 12月9日 13:00～ 16:00	3時間	千葉県国際交流 センター 会議室	10人	中国(3人)、ポ リビア(1人)、 ベトナム(2 人)、ガーナ(1 人)、日本(3人)	子育て2-③	子育てに関するミニドラマ 作り。スピーチ動画につけ る要約の作成。	萬浪絵理 (講師)	高橋実優子
19	平成27年 1月14日 9:30～ 12:30	3時間	千葉市国際交流 プラザ	13人	中国(2人)、韓 国(1人)、インド ネシア(2人)、 タイ(1人)、バ ングラデシュ(1 人)、日本(6人)	自治会-①	自治会に関する講話を聞 き、内容の共有、各国との 比較。自治会活動に関す る導入的な話し合い。ス ピーチの準備。	萬浪絵理(講 師)、林豊(講 話講師)	
20	平成27年 1月21日 9:30～ 12:30	3時間	千葉市国際交流 プラザ	25人	中国(4人)、イ ンドネシア(1 人)、タイ(2 人)、フィリピン (1人)、ミャン マー(1人)、日 本(16人)	自治会-②	学習者のスピーチと質疑 応答。小グループに分か れグループワーク。日本や 各国の自治会活動を踏ま え、「理想のまち」を模造紙 に協働で描き出し、発表。	萬浪絵理 (講師)	三橋敏孝
21	平成27年 1月28日 9:30～ 12:30	3時間	千葉市国際交流 プラザ	13人	中国(2人)、イ ンドネシア(1 人)、タイ(2 人)、バングラ デシュ(1人)、 日本(7人)	自治会-③	自治会に関するミニドラマ 作り。スピーチ動画につけ る要約の作成。	萬浪絵理 (講師)	三橋敏孝
22	平成27年 2月17日 13:00～ 15:00	2時間	千葉市国際交流 プラザ	8人	中国(7人、イ ギリス1人)	日本語会話 グループレ ッスン①	「日本でいいこと、大変なこ と」について支援者と会 話。質問されるのを待たず に積極的に発話することに 留意。	萬浪絵理 (講師)	
23	平成27年 2月24日 13:00～ 15:00	2時間	千葉市国際交流 プラザ	6人	中国(4人、イ ギリス1人)、イ ンドネシア(1 人)	日本語会話 グループレ ッスン②	学習者が準備してきた テーマについて支援者と会 話。3分程度のお喋りの中 で出てきた新しい単語や 表現をメモしておき、再現 する方法の紹介、演習。	萬浪絵理 (講師)	
24	平成27年 3月3日 13:00～ 15:00	2時間	千葉市国際交流 プラザ	7人	中国(4人、イ ギリス1人)、イ ンドネシア(1 人)、韓国(1 人)	日本語会話 グループレ ッスン③	学習者が準備してきた テーマについて支援者と会 話。日本語レベル別のグ ループで聞き返しや話の 振り方を含めたよりよい会 話形式の練習。	萬浪絵理 (講師)	

(7) 参加者の募集方法

千葉市国際交流協会内掲示、千葉市国際交流協会HP・フェイスブックでの告知、ボランティア・市内日本語教室へメール送信、プロジェクトフェイスブックでの告知、プロジェクトメール配信、市役所庁内ネットワークで呼びかけ、入国管理局・区役所・公民館・コミュニティセンターへちらし掲示

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1) テーマ「防災」ステップ1 平成26年10月31日

千葉市防災普及公社との連携により、起震車での地震体験、消火体験をした。防災に関する講話を聞き、随時、グループで内容の確認と共有をおこなった。災害に関する質問シートを各自で埋めた後、クラス全体で比較・共有をして、スピーチにつながる導入とした。また、ステップ2で行うアンケート作成と、ステップ2の役割分担(司会、受付、会場設営など)をした。



地震体験



消火体験

2) テーマ「子育て」ステップ2 平成26年12月2日

広報を見て参加した地域住民を聴衆として、学習者が日本での子育て経験や自国との比較などをスピーチした。その後、参加者全員が小グループに分かれ、どのような変化があれば街はだれでも子育てしやすい環境になるかという観点から、意見交換をした。乳児・幼児を連れて地域の母親が多く参加し、学習者との交流の中で双方がことばを通じて相互理解を深めた。



子育てについてスピーチ



グループで話し合い

3) テーマ「自治会」ステップ3 平成27年1月28日

ステップ1での導入やステップ2での協働を通じて、自治会についてわかったこと、今後活動してみたいことなどをそれぞれの日本語力に応じた形で作文をした。次に、その作文を活かし、内容を地域内外の外国人住民に伝えることを目的としたミニドラマを作った。学習支援者と協働でシナリオを作り、練習し、撮影した。合間の時間に、各自のスピーチの一部に要約を挟むため、作文をしてPCやタブレットで入力作業をおこなった。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

■「スピーチや対話セッション参加を通じて日本語の運用能力が培われる」という目標については、以下のアンケートコメントから、概ね達成できた。また、このクラスの間がひとつの社会参加であったと捉えられ、参加者が地域社会の中で積極的に他者と関わっていく意欲を持つ機会となったことが窺われる。

アンケートコメント(ママ)

- ・この日本語クラスを通して、いろいろ国の方にお会いすることができ、日本語を使って日本語を話せる自信ができました。
- ・スピーチをやって自信がもてました。いいけいけんになりました。
- ・外国人の日常生活にとってディスカッションはとても楽しく役に立つものでした。自分自身を表現する機会は話したり聴いたり理解したりするとてもいい機会でした。
- ・ミニドラマ、スピーチ、話し合い、作文、入力作業など、いろいろなことを日本人と一緒にやりながら日本語の勉強をすることはとてもいい方法です。
- ・日本語学校で、自分のことや国のことなどを今までこんなにたくさん話したことがありませんでした。話せてよかったです。

■「生活に密着した様々なテーマに関して日本への理解と内省が促進される」という目標については、以下のアンケートコメントから、概ね達成できた。

- ・日本や千葉の文化を知り、言葉を練習できるいいクラスです。
- ・いろいろ避難についての日本語ことばや表現を勉強しました。防災の知識もたくさん覚えることができた。
- ・自治会についてぜんぜん知らない方もわかりやすく知る機会になったと思います。
- ・日本に7年住んでいるが、自治会のことは知らなかった。機会があれば活動に参加したい。

■「対話に参加する日本人の多文化理解が進み、また、日本で生活する外国人の苦労や不安への共感が生まれること」については、以下のアンケートコメントから、ほぼ達成できた。

- ・近隣の日本人社会が外国人及びその家族を同国人のように受け入れる環境がととのうよう努力したい。
- ・5人の方のお話が聞けてとてもよかった。日本でがんばっている姿がいいです。
- ・いろいろな国籍の方の教え方を知ることができていろいろなことを考えることができた。
- ・子育て中の外国の方の生の声を聞き、病院や買い物などで困っていることが実感としてよくわかった。
- ・外国人の方の問題として語られていましたが、日本人の中にも共通してある問題も多かったです。(言葉などは除いて)一緒に考えられて良かったです。

■日本人の意識にそういった変化が起きることで発信者が取組に意義を感じることにしても「私のスピーチから他の人と意見の交換ができてよかったと思います」という参加者の感想があがっており、ほぼ達成できた。

■その他、複数のテーマのクラスに継続して参加した学習者の事例では、クラスの様々な活動に対して次第に能動的に参加するようになった変化が捉えられた。当初は引率の学習支援者から離れず発話も少なかったが、最後はスピーチをこなし、日本人参加者とのグループ活動に1人に対応した。また、あとから参加した同国参加者に対して手助けや助言をする姿もあり、ことばと自信を同時に獲得していく様子が窺えた。この事例から、地域の多様な人々との人間関係を持ちながら興味のある活動に個々の能力に応じて参加ができる本クラスを通し、「生活者としての外国人」に社会参加につながるエンパワメントが起こると言える。

(10) 改善点について

本クラスは学習者の日本語のレベルを特に定めず、レベルに応じて多角的な収穫と発信が生まれるように設計されていた(例えば、ほとんど話せない日本語レベルであれば、言いたいことばを調べてメモをする/自由に話せるレベルであれば、「思い」や「経験」の発信を基に、グループの人と意見交換やアイデア出しをする、など)。日本語だけでは無理があると予想される場合は、通訳ボランティアを手配して対応したものの、活動の種類によっては十分な参加ができない場面もあったため、今後さらなる工夫が必要である。また、「内容が盛りだくさん」「時間が足りない感じがした」といった意見も出され、クラスの内容・進めかたにも改善の余地がある。

学習者の募集では、ポスター掲示よりも当協会日本語学習している人への声かけが一番効果があった。地域の外国人住民の参加を増やすために、広報方法にも工夫が必要である。さらにより多くの市民の参加を得るために、参加主催者単独の開催とは別に、生活に根差した場(スーパーや公民館など)と共催し、イベントの一部として外国人との対話交流に一般市民を巻き込む形が考えられる。しかし、調整の手間がかかるため、コーディネーターを要することが課題である。

また、本クラスのファシリテートには活動の提示のみならず学習支援者との協働が必須であることから日本語教師であるだけでは務まらない。実施可能な講師を増やすことが課題である。

○取組2: 外国人の社会参加を支える支援者研修

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・支援者の目標に外国人の社会参加促進が盛り込まれる。
- ・既存の支援者が自己の学習支援についてPDCAを回せるようになる。
- ・講座終了後、参加者による学習支援の具体的な内容にカリキュラム案の内容が取り込まれる。

(2) 取組内容

■支援者養成講座(全10回) 活動未経験者対象

ボランティア日本語活動は「生活者としての外国人」に対する生活・社会参加支援の一環であるということが理解できる構成にする。また、傾聴を含めたコミュニケーションスキルや自律学習を支える関わり方を研修の柱とすることで、「対話」や「協働」を伴った日本語学習の意義に理解・共感が得られるようにする。「生活者としての外国人」のための日本語教育の標準的なカリキュラム案―指導力評価」の紹介を含める。

■支援者実践講座(全5回×2) 活動経験者対象

取組1の準備や実施と連動させ、実践的研修とする。生活者である外国人学習者に対する週2～3時間のみ日本語支援活動という環境に即して、従来型の「日本語を教える」関わりよりも効果的かつ多文化共生に資する関わりとして、「聴くこと」をテーマにしたスキルと活動を紹介、演習する。

■日本語会話グループレッスン体験研修(全3回) (再掲)

学習者が日本語でもっと自由に言いたいことが言えるちからをつけられるよう、グループ形式で自分の話したいテーマを学習者と会話する支援方法を実践を通して学ぶ。日本語クラスを兼ねる。

(3) 対象者 市内日本語ボランティア、連携機関の所属者

(4) 参加者の総数 43人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	人
ネパール	人	日本	43人

(5) 開催時間数(回数) 66時間 (全23回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 5月27日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	19人	日本(19人)	実践講座1- 1 学習者の社 会参加	講座の特徴、ルールの説 明。日本語学習支援と多 文化共生とは何かについ て学ぶ。	萬浪絵理	
2	平成26年 6月3日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	16人	日本(16人)	実践講座1- 2 地域日本語 教室の意義・ コミュニケーション スキル	地域日本語教室で学ぶ学 習者について知る。コミュ ニケーションスキルを学 び、実践する。	萬浪絵理	
3	平成26年 6月10日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	16人	日本(16人)	実践講座1- 3 理念と活動 内容	外国人のニーズ、ボラテ ィアのニーズ、教室の活動 理念について学ぶ。	萬浪絵理	
4	平成26年 6月17日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	15人	日本(15人)	実践講座1- 4 地域のリソ ースと学習素 材	「生活者としての外国人」 に対する日本語教育の標 準的なカリキュラム案教材 例集を使い、具体的な活 動を考える。	萬浪絵理	
5	平成26年 6月24日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	12人	日本(12人)	実践講座1- 5 目標設定と ふりかえり	ペアワーク インタビュー 「今の姿」「ありたい姿」 を行い、目標設定とPDCAサ イクルについて学ぶ。	萬浪絵理	
6	平成26年 9月2日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	11人	日本(11人)	養成講座1 千葉市と近 隣地域を取 り巻く状況	講座の特徴、ルールの説 明。千葉市における外国 住民の状況を知る。	萬浪絵理	

7	平成26年 9月16日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	11人	日本(11人)	養成講座2 日本語ボラ ンティアとは 何か	地域日本語学習支援の変 遷や日本語ボランティアの 役割を知る。	萬浪絵理	
8	平成26年 9月23日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	11人	日本(11人)	養成講座3 コミュニケー ションスキル	様々な「話の聴き方」の実 験を行い、相手に寄り添う ことや初級学習者の発話 を促すことを学ぶ。	萬浪絵理	
9	平成26年 9月30日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	10人	日本(10人)	養成講座4 やさしい日本 語で伝え合う	やさしい日本語とは何か、 やさしい日本語への置き 換えへのポイントを学ぶ。	萬浪絵理	
10	平成26年 10月7日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	13人	日本(13人)	養成講座5 外国人の日 常生活に役 立つ支援を 考える	ワークシート「ライフステー ジと生活場面」を作成し、 学習者の日常生活のどの 場面で、どんな役立つ支 援があるか考える。	萬浪絵理	
11	平成26年 10月21日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	11人	日本(11人)	養成講座6 標準的カリ キュラム案 を使って活動 を組み立てる ①	「生活者としての外国人」 に対する日本語教育の標 準的なカリキュラム案5点 セット(カリキュラム案、ガ イドブック、教材例集、能 力評価、指導力評価)につ いて学ぶ。	加藤早苗	萬浪絵理
12	平成26年 10月28日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	12人	日本(12人)	養成講座7 標準的カリ キュラム案 を使って活動 を組み立てる ②	標準的カリキュラム案など を使って具体的に教材を 作る演習を行う。	田栗春菜	萬浪絵理
13	平成26年 11月4日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	12人	日本(12人)	養成講座8 話のネタを考 える	話のアイデアマップ作成を 通じて会話のネタの作り方 や質問方法を学ぶ。	西山陽子	萬浪絵理
14	平成26年 11月11日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	11人	日本(11人)	養成講座9 話題を学習 へ	日本語能力試験について 知る。文法積み上げ方式 のテキストを使って「会話 する」方法を知る。	萬浪絵理	
15	平成26年 11月18日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	10人	日本(10人)	養成講座10 今後に向け て	講座全体を振り返り、今後 の活動を考える。	萬浪絵理	
16	平成26年 11月20日 10:00～ 13:00	3時 間	千葉市国際交流 プラザ	22人	日本(22人)	実践講座2- 1 外国語として の日本語	講座の特徴、ルールの説 明。「正しい日本語」とは 何か、を考え、外国語とし ての日本語について知る。学 習者との協働セッション	萬浪絵理	
17	平成26年 11月27日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	18人	日本(18人)	実践講座2- 2 助詞	日常の発話から、ことばの 規則について考える。学習 者との協働セッション。	萬浪絵理	
18	平成26年 12月4日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	16人	日本(16人)	実践講座2- 3 コミュニケー ションのあり 方	協働セッションの録音を 使って、コミュニケーション のあり方を観察・分析す る。学習者との協働セッ ション。	萬浪絵理	
19	平成26年 12月11日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	18人	日本(18人)	実践講座2- 4 発話の促進	発話を促す際に意識する ことを話し合い、学習者 との協働セッションで実践 する。	萬浪絵理	
20	平成26年 12月18日 10:00～ 13:00	3時間	千葉市国際交流 プラザ	14人	日本(14人)	実践講座2- 5 文法、まとめ	普段の会話を分析し、文 がどのように成り立ってい るかをグループで考える。 講座を振り返り、今後の活 動を考える。	萬浪絵理	

21	平成27年 2月17日 13:00～ 15:00	2時間	千葉市国際交流 プラザ	18人	日本(18人)	日本の生活 のいいとこ ろ、困ると ころ	学習者との対話や他者の 活動の観察から、対話型 支援で意識することにつ いて学ぶ。	萬浪絵理	
22	平成27年 2月24日 13:00～ 15:00	2時間	千葉市国際交流 プラザ	13人	日本(13人)	自由テーマ	学習者との対話や他者の 活動の観察から、対話型 支援で意識することにつ いて学ぶ。	萬浪絵理	
23	平成26年 3月3日 13:00～ 15:00	2時間	千葉市国際交流 プラザ	14人	日本(14人)	自由テーマ	学習者との対話や他者の 活動の観察から、対話型 支援で意識することにつ いて学ぶ。	萬浪絵理	

(7) 参加者の募集方法

千葉市国際交流協会内掲示、千葉市国際交流協会情報誌・HP・フェイスブックでの告知、ボランティア・市内日本語教室へメール送信、プロジェクトフェイスブックでの告知。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

1) テーマ「やさしい日本語で伝え合う」平成26年9月30日

やさしい日本語について、置き換えでのポイントなどを資料『「やさしい日本語」の手引き(愛知県作成)』を使って学んだ。また、外国人学習者と実際に会話して、学んだことを実践した。

2) テーマ「話題」を「学習」へ 平成26年11月11日

「お喋り」を単にお喋りで終わらずに「学習」に変える方法を演習した。また、文法積み上げ形式のテキストに載っている会話例を話の素材として利用し、より自然な会話につなげる方法を演習した。テキストの日本語の特徴を知るとともに、対話中心の日本語活動の材料としてどのようなものでも利用できることを学んだ。

3) テーマ「発話を促す」平成26年12月11日

話の聴き方のバリエーションをペアワークで学んだ。また、「学習者がたくさん話せる環境を作る」ことを目標に研修の場に学習者に入ってもらい、学んだことを実践。学習者との対話の録音を聴き返すなどのフィードバックにより、受講者が自分のコミュニケーションを意識しながら、より対等な関係づくりと学習支援の方法を模索した。



講座には、ペアワークやグループワークを多く取り入れた。



研修の場に学習者に入ってもらい、実践的な講座とした。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

■学習支援においてカリキュラム案の内容が盛り込まれるという目標は、以下のアンケートコメントから概ね達成できた。

- ・標準的なカリキュラムの考え方が十分理解できました
- ・教材づくりに参考になる情報を得ることができた
- ・文化庁の資料も使ってみようと思った
- ・教材作りのワークで検討したことをもとに、やってみようと思う

■支援者が外国人住民の社会参加促進の視点を持つという目標は、概ね達成できた。

- ・多面的に考える機会になった。日本の国際化がどういう方向に行ったらいいのかわか、勉強になった。
- ・地域に住民として生活している外国人との共生を日常の活動を通して実践してみたい。
- ・学習者が一市民として自立した社会生活ができるよう、支援を継続していきたい。

■「支援者が学習支援についてPDCAサイクルを実施できるようになる」という目標は、毎回のプログラムの振り返りのあとに次の回までの実践課題を各自が決めて宣言し、次の回の冒頭にペアで結果を報告し合うというサイクルを取り入れることで考え方を紹介することはできたが、その実践の定着と促進は今後の課題である。

・学ぶだけでなく、自分の支援を振り返り、良い点も気づくことができ、自信も少し持てた。

■学習支援は「日本語を教えること」と同じではなく、他に様々な方法があることを伝えることができた。並行して実施した日本語クラスに入ってもらうことで、実践と連動した学びを提供できた。

・受講前は、「みんなの日本語」のような教本の教え方を勉強するのかと思っていた。ボランティアは日本語を教えると思っていた。いろいろなことが目からウロコだった。

・視野が広がり、少し深い視点で学習支援活動について捉えることができるようになった。

・今回の講座では日本語の文法より学習者と対等に生活や環境を支援することが大事だと学び、現在、そのようにボランティアをやっていたので、改めて、今のやり方が間違っていないと確認ができた。でも公的サービスとしてあるべき初級者への日本語指導は今ボランティアがやっており、そのギャップをどう埋めていくかは課題として残った。

・「教える」を意識せず「ともに学ぶ」の姿勢で取り組みたい。

・私のしてきた支援の方法を考え直すことができた。テキスト(みんなの日本語)中心に教えていたやり方は今後改めていきたい。

・「テキストの教え方」を期待して受講したが、内容が全く違っていた。受講してみて、今まで不安に思いながらも学習支援していたが、活動に自信が持てた。

・私が所属するところはテキストを中心に勉強しているので、全く違った内容で驚いた。理想とする学習の形だと思う。早速実践したい。

■日本語学習者との対話を実際に行いながら双方がコミュニケーションのあり方を省察するという協働演習により、対等な関係づくりをめざすことができたことは大きな成果であった。

・学習支援の役割について改めて気づかされたことが多々あり、とても参考になった。今後の活動にフィードバックしていきたい。

・協働セッションにおける学習者とのコミュニケーションを通じて学習者の日本語学習意欲アップにつながる活動を学んだ。

・学習者とのコミュニケーションのあり方を考えさせられた。特に学習者の心理をふまえていかに発話を促し、また学習効果を高めるか、具体的なストラテジーや内容を学ぶことができ、とても有意義だった。

・一対一の学習では「お喋り」に終わってしまうことになりがちだが、それを「学習」にしていく工夫を常に考えていきたい。

・支援者同士の交流(意見交換など)協働セッション学習法を普段の学習者の方との時間にも使えるとよいと思った。

(10) 改善点について

■日本語活動の内容やあり方については様々な考え方があるため、講座の実施においては、受講者に混乱を招かないよう、主催者側にぶれない軸と用語や内容の統一が必要である。本研修では支援者を「日本語指導者ではなく、対話・協働をおこないながら学習を背後から支援する人」と明確に位置づけていたにも関わらず、「標準的なカリキュラム案一指導力評価」を紹介した際、資料に使われている用語(「指導者」)や例として挙げられていた指導評価項目が講座での主張と異なっていたために、「私たちは楽しみでボランティアをしたいのであり、仕事のようにおこないたいわけではない」という、受講者の反発を招いた。素材や資料の紹介をする際には入念な確認と選別が必要である。

■アンケート結果によれば、1回あたりの時間について「ちょうどいい」と答えた人が70%以上となっているが、10回の養成講座では「長すぎる」と答えた人も30%いる。「回数が多く、少々しんどかった。ボランティアとしての姿勢と具体的なアイデア・ヒントなどを少し学ぶ場として3回とか5回程度で開講してもよいかと思った。」といった意見も寄せられ、回数と時間については改善の余地があるといえる。また、研修講師(ファシリテーター)には日本語教師とは異なる専門性が求められるため、人材育成を要する点も今後の大きな課題である。

今年度から、学習支援のあり方を鑑み従来の教授法研修から研修方針を転換した。このことに関して、受講者が所属する各地の日本語教室との情報共有には至っておらず、研修修了者の価値と成果が十分受け入れられる態勢づくりが今後の課題である。

○取組3: 事業成果普及

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・国際協力や外国人支援に関わっていない一般市民層を含め、幅広く大勢が本事業の取組について知る。
- ・事業を通して連携した機関がつながり、必要に応じて協働できる基盤が作られる

(2) 取組内容

1) フェイスブックによる事業告知や報告 <https://www.facebook.com/chibatabunka26>を参照。

2) プロジェクトメールによる事業告知や報告(約150名)

3) 事業成果発表

2月8日(日)ちば市国際ふれあいフェスティバルにおいて、パネル展示・リーフレット配布を行った。

(3) 対象者 取組1、2の関係者や参加者をはじめとした一般市民

(4) 特徴的な活動風景(2~3回分)



ちば市国際ふれあいフェスティバルでパネル展示・リーフレット配布

(5) 取組の目標の達成状況・成果

取組が終了するたびにフェイスブックとブログに内容と成果を書き込むことにより、参加者以外の潜在的関心層に訴えたことは体制整備の観点から妥当であり、インターネットでの成果報告は、取組に参加しなかった層への啓発のみならず、参加した人(日本語クラス・支援者研修)にとっても取組を大局的に客観的に捉えるふりかえりの材料となった(支援者の声より)。また、取組に直接参加しないまでも「いつも報告を読んでいる」という声を多く聞いたことから、地道な継続が共生社会づくりにつながると捉えられた。

地元ケーブルテレビが日本語クラスの取組の取材に2回入ったことにより、成果普及の幅が広がった。

(10) 改善点について

インターネット媒体は時間・空間を問わず情報が届くという利点の一方、見る層に限られると思われた。随時、フェイスブックやブログに成果をアップするという作業は労力を要した。ボランティアとの協働で行いたい面もあったが、ことばの使い方や写真の扱いなど責任を伴うことが含まれることから委譲には課題がある。

ちば市国際ふれあいフェスティバルでは紙媒体でのリーフレット配布を通して関心層を増やすことができた。フェスティバル後も折にふれ、リーフレットを活用し、事業案内を行っており、今後の活動への参加も増えると思込まれる。

今後、「国際」をテーマとしないイベントや場所においても広報活動を行うことによって、より多くの一般市民の関心と呼ぶことが必要であることも課題である。手渡しや口頭説明は有効だが、マンパワーの問題から、その他の成果普及策も検討しなければならない。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

生活者としての外国人に対する生活・社会参加に根差した日本語教育の機会拡充と内容充実を図るとともに、市民の多文化理解促進により、包括的な支援体制整備を行う。

(2) 事業目的の達成状況

運営委員により下記のような事業評価が示された。

・日本語教育を通して社会変革を目指すという事業コンセプトは非常に高く評価できるものだと思います。特に地域社会の日本語教育では、日本語を学ぶこともさることながら、その場をどのように社会的な場として有効に機能させるか、いわゆる「学校・教室」との違いをどこに見出すかが重要だと思います。その点で、本事業の目指すところは、今後の地域社会における多文化共生の実現に向けて、高い価値があると言えます。

・「ボランティア研修」により、日常生活にも役立つ内容を盛り込んだことに対しては、評価できる。

・外国籍住民をサービス受益者として捉えている取り組みが多い中で、本取り組みは日本人住民と外国籍住民が地域社会で生きる市民として協働し、助け合い、課題を解決していく協働の社会システムを構築していくことの重要性に着眼している点は大いに評価できる。プロジェクトでは、これまでの日本語教育のあり方とは異なったアクティブラーニングの方法を用いた日本語教育を試みているが、これは外国人住民の日本・日本人への客観的理解を促進し、地域に生きる市民として主体的に生活していく上で独創的、かつ有効な方法であると思われる。支援者研修においても同様の方法を用い、日本人住民の住民の多文化社会で生きることへの気づきを促している点も評価できる。本プロジェクトは「協働」の理念に裏打ちされた有意義な取り組みであると高く評価する。

以上の評価及び上述の取組1・2の目標の達成状況・成果からも、生活者としての外国人に対する生活・社会参加に根差した日本語教育の機会拡充と内容充実を図るという事業目的は十分達成できたといえる。また、これまで当地域で手つかずであった包括的な支援体制整備に向けて大きく前進したといえる。

また、本事業実施に当たっては、さまざまな機関との連携・協力が不可欠であり、以下の連携・協力のもと各取組を実施した。

- ・取組1 テーマ「趣味」：千葉市中央コミュニティセンター、新宿公民館、市内カルチャーセンターへヒアリング調査、
- ・取組1 テーマ「子育て①」…緑区健康課・誉田保育所・神明保育所へヒアリング調査、おゆみのにほんごひろば・みどり土曜にほんご学級と連携してクラスを実施
- ・取組1 テーマ「介護」…美浜区内安心ケアセンターへヒアリング調査、会場協力：美浜区保健福祉センター（高齢障害支援課）
- ・取組1 テーマ「防災」…会場協力：花見川区地域振興課、千葉市社会福祉協議会花見川事務所、地震体験：公益社団法人千葉市防災普及公社、NPO法人日本防災士協会より防災士が日本語クラスへ参加
- ・取組1 テーマ「子育て②」…にほんごのちから と連携してクラスを実施、会場協力：(公財)ちば国際コンベンションビューロー千葉県国際交流センター、
- ・取組1 テーマ「自治会」…吾妻町二丁目町会
- ・取組1・2…広報協力：区役所、コミュニティセンター、公民館、入国管理局、市内日本語教室

(3) 地域における事業の効果、成果

■地域の第1の課題である、学習者の積極的な社会参加を支援するという視点を、支援者が持つことについては取組2の支援者研修や取組1の日本語クラス実施でのアンケート結果からも実現できたといえる。また、取組1で学習者は「聴く、話す、読む、書く、考える」等、様々な学習活動を通して、各々のレベルに応じた習得ができた。アンケート結果からも、量的な習得よりも、日本語を使った活動に参加することへの質的な満足を生み出したことから動機づけにつながった。今後、取組1に参加し、自己を「発信」して自信を得た外国人住民の社会参加が進み、地域活動に参画することで地域社会の活性化に寄与することが期待される。

■第2の課題、多文化共生社会の実現に向けてより多くの市民をまきこむという点では、取組1において、生活に密着したテーマに関心のある一般市民の参加も得られたことから実現に向けて前進したといえる。また、実施準備としてテーマ関係者にヒアリングを行ったことで体制整備につながる課題把握ができた。また、関係者に対して多文化社会問題対応への視点を提供することができた。さらに、一般参加として防災士・保育士などテーマに即した関係者に多文化社会問題への気づきを創出できた。

■支援者研修受講者が日本語クラスへも参加したことにより、当事業のコンセプトを理解した支援者の拡充も実現しつつある。取組1において、参加者がテーマについて考えを深めたり発表の準備を行ったりする過程の活動を各学習支援団体との連携で実施したことにより、支援者に教室活動の具体的なコンテンツを提供し、事後も教室活動に取り入れてもらえる素地をつくれたといえる。(協働で実施した日本語教室関係者の声から)

地域内の日本語教室との連携・協働について、今年度いくつかの日本語教室と連携して日本語クラスを実施した経験を活かして、今後も更なる協働を模索する。

(4) 改善点、今後の課題について

本事業の当初の目標をほぼ達成でき、あたらな試みとしては大きな成果を示すことができたが、課題もいくつかあげられる。

運営委員の事業評価で下記のように改善点・課題が示された。

・「ボランティア研修」により、日常生活にも役立つ内容を盛り込んだことに対しては、評価できるところです。その内容をボランティアと外国人住民とが協働して取り組んでいく事が出来るようなネットワークづくりが今後の課題となると思われます。その為には、講師の育成や外国人住民の率先した参加が不可欠です。

・事業全体として本事業をとらえたとき、どうしても近視眼的な課題への対応に追われているという印象を持っています。現場のさまざまなことに対処することは非常に重要ですが、その実践を通して、社会変革を目指すにあたっては、もう一段階高いところから、大局的かつ中長期的に取り組むを考えていく必要があると思います。また、目標→実施→評価・成果普及という一連の事業サイクルを考えたときに、評価や成果普及がやや「後付け」で動いているように感じます。昨今、公的セクターや関連団体では、予算や人員の配置が十分でないということが常態化していると思います。そのような状況下で新たなことに取り組むのは非常に難しい面があると思います。今後の取り組みとして、事業横断的な取り組みを行ったり、関連他団体との連携をより密にしたりすることで、限られたリソースによってより効果的な事業運営が期待できるのではないかと考えています。連携することが目的ではなく、具体的な課題を解決するための連携が可能になれば、成果普及の面でも、より幅広い社会的効果が期待できると思います。コンテンツに比して、実施体制の不十分さが否めないということです。今後の改善が期待される点です。

以上、運営委員の評価も踏まえ、今回の事業で得られた経験をもとに次年度も事業を継続していきたい。

(5) その他参考資料